

栄養実習を終えて

大食二 宮 崎

京女食堂での実習が終つてこれで三回の栄養実習を終えた事になる。小学校、錦華食堂そして京女食堂と。三回の実習を終えて全般的に感じた事は栄養士の任務、それに伴う責任の重大さである。一般の人が思っているように唯、栄養量を計算し、毎日の献立をたてただけですむというような簡単な仕事ではないのだ。栄養量の計算は言う迄もなく、仕入れから作製、従業員の管理、及び食堂の管理、報告書類、その他すべての仕事の責任が栄養士にかかってくるわけである。

その責任も“食物”という人間に最も身近な問題であるだけにその重大さははかりしれない。食べる側は価格が高い、おいしくない、献立に変化が無い等と勝手な事を言っているわけだが、実際に栄養士の側に立つて働いてみると無責任な文句も言えなくなる。

栄養量、経済、作製時間、その他諸々の条件をすべて考え合わせた上で、何度も何度も検討し、ようやく献立ができ上る。それからできるだけ安くする為に仕入れを考慮し、実現の段になつても従業員との和がうまくはかられていなければ積極的な協力を得られない。ようやくでき上つて配給しても賞められる事よりは欠点の方を多く言われる。

衛生方面にどんなに栄養士がやつきとなつても従業員の協力がなければうまくやれない。ここに調理される人達と栄養士との人間関係のむづかしさが生じる。万一中毒者が発生するような事故が起ればその責任は栄養士にかぶさってくる。

こう書いてくると、何だか栄養士という職業に対して悲観的になつてくるように思われるが、しかし、それだけやりがいのある職業ではないだろうか。自分の能力、手腕が喫食者の反響によつて形となつてあらわれてくる。それを見て更に努力すればその成果が又現われてくる。私達は栄養士となる為に進んでいる自分の道に大いに誇りを持つてよいだろう。